

(別紙資料)

平成20年度区民・事業者・区の三者による意見交換会についての報告

1. 実施日、テーマ等

実施日	平成21年2月16日(月) 14:00~15:30
テーマ	不要な容器包装の削減に向けた区民・事業者・区の協働した取り組みについて
コーディネーター	滝田 靖彦 氏 (プラスチック容器包装リサイクル推進協議会専務理事)
内容	コーディネーターによる基調講演 推進協議会メンバーによる意見交換会

2. 講演会概要

(1) ごみ減量のためには市民・事業者・自治体のお互いの理解が必要

私たちの生活をしていく中では、日常生活に伴ってさまざまなごみが排出される。ごみに対する様々な問題があるが、それを解決していくためには廃棄物を抑制し、再生利用(リサイクル)を進めていくことが大切になる。

また、持続的・効率的な3Rを進めていくためには、市民・事業者・自治体がお互いを理解し、協議しながら果たすべき役割を担っていくことが重要である。例えば、市民はマイバッグを持参し、事業者は消費者に対して的確な情報を提供し、自治体は地域特性を配慮した施策・広報活動を行うなど、それぞれの役割を確認し、的確に実施していくことが大切である。

しかし、容器包装の減量は大切であるが、包装の減量のみを重視してはならない。容器包装は内容物の品質保護を行い、輸送効率の向上・商品情報の伝達という大切な役割も担っている。その機能を損なわない限度で、『過剰』ではない『適正』な包装により減量を行っていくべきである。

(2) 事業者の容器包装減量の事例の提示

メーカーは次のような取り組みを行っているということの例示を行った。

容器包装の使用量の低減(軽量化・薄肉化)

- ・容器のプラスチック使用面積の減量を行った
- ・スプレー缶の肩の部分のプラスチックを作らない設計にする

容器包装の使用原材料の削減(スリム化、コンパクト化)

- ・包装の形状をコンパクトにすることによる容器包装の減量
- ・液体洗剤の濃縮化
- ・リンスインシャンプー(容器が1つになる)

容器包装の生産及び省エネ

- ・詰め替えパックの製造

- ・潜在のスプーンをリサイクル加工されたものに替える
- ・リサイクルしやすいようにビンのプラスチック部分を取りやすい設計にする

(3) まとめ

メーカーは消費者の意見を真剣に受け止め、日々その声に対する解決策を模索しているので、消費者は思ったことを意見としてメーカーに提供していくことが大切である。そのような意思の疎通が最終的に効率的なごみ減量・リサイクルにつながっていくこととなる。そして、区民・事業者・自治体の情報の共有・相互理解・意見交換がごみ減量につながっていくということでまとめとした。

3. 三者意見交換会

(1) 三者意見交換会概要

容器包装をどのように減量していくべきかの意見交換会が行われた。

まず、「過剰包装を事業者はどのように考えているか」との質問から始まり、包装の減量は必要であるが製品安全性や情報の提供も必要であるなどの意見が交わされた。

製品の包装を減量することによって、逆に輸送中の製品毀損を避けるために保護のための梱包材が過剰になることもある。製品そのものの包装の減量だけでなく、梱包材やその輸送コストなども含め、トータルで考えていく必要があるという意見があった。消費者も少しへこんでしまうとその商品を敬遠する傾向にあるため、その辺についても消費者は考えなければいけないことではないかとの意見もあった。

その他に、ペットボトルの口のプラスチックや商品の包装に張られている紙がはがしやすいようにしてほしいという具体的な意見が出た。そのようなことは「お客様相談室」などで消費者の声を待っているので、メーカーに直接率直な意見を継続して言い続けることが大事。そのようなことによって時間はかかるかもしれないが改善されて行くとの意見の交換がされた。

また、プラスチック包装の回収・処理が23区で足並みが揃っていないので、合わせるべきではないかという意見もあった。

(2) まとめ

容器包装の減量を実現するためには、区民・事業者・自治体の三者が、意見や情報を持った際にはその意見や情報を交換して、相互に理解することが大切である。

区民代表の委員の中からは「事業者の取り組みが聞けて良かった。消費者の立場からだけでなく、情報交換してお互いのことを理解することが必要であると感じた。」との意見が出た。

そして、ごみ減量のために、

商品を Watch しよう 簡易包装を多くしよう 情報交換をもっとしよう

以上の3つを実践し、

そして消費者は「もっと、声を挙げよう」ということで、この意見交換会のまとめとした。